

原発事故後の「地域再生」を考える

日時：2016年2月3日（水）13：30～17：30

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー7階 0705教室

戦後の急激な高度成長を経て「地域再生」が叫ばれるようになって久しい。震災、とくに原発事故による被害は、その傾向に拍車をかけた。中長期的にやむを得ず核廃棄物を抱えながら「再生」を模索しなければならない地域も生じている中で、今後の「地域再生」を考えるための幅広い議論の場が求められている。

本研究会では、再生可能エネルギーを活用して「地域再生」に挑戦してきた地域の実践、公害を経験したのちに「再生」を模索してきた地域など、異なる条件を抱えた事例を検討しながら、原発事故後の「地域再生」を考える材料について議論してみたい。

スケジュール：

* 課題提起 20分 + 質疑応答、コメント、討論 30分のラウンドテーブル形式で進行予定。

13：30-13：40 趣旨説明

13：40-15：25 【第一部】

提起1：原発事故被災地の「再生」と放射性廃棄物

松尾 隆佑（法政大学大学院政治学研究科博士課程）

提起2：公害被害地における「再生」を考える

友澤 悠季（法政大学サステナビリティ研究所 客員研究員）

ゲストコメンテーター：山本 信次 氏（岩手大学農学部 准教授）

15：25-15：40 休憩

15：40-17：25 【第二部】

提起3：再生可能エネルギーの導入による地域社会の構造的再生の理論と事例評価

白井 信雄（法政大学サステナビリティ研究所 教授）

提起4：再生可能エネルギーによる地域づくりの事例と中間支援組織の役割

豊田 陽介（NPO 法人気候ネットワーク 主任研究員）

ゲストコメンテーター：大場 真氏・五味 馨氏（国立環境研究所社会環境システム研究センター）

* 終了後、同じ建物内で研究交流会を行います。ぜひご参加ください（立食形式、18：00～20：00）。